

## 第405回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 平成21年10月7日(水) 午前10:30より

2. 開催場所 長野放送会議室

3. 委員の出席

○委員総数 9名

○出席委員数 8名

○出席委員の氏名(敬称略・委員は50音順)

委員長 宮本 忠長

副委員長 中村 重一

副委員長 松田 幸子

委員 大橋 俊夫

委員 小出 貞之

委員 塚田 芳樹

委員 中條 智子

委員 丸山 仁也

4. 放送事業者側出席者

相崎 由松(代表取締役社長)

瀬木 潔(代表取締役副社長)

堀 眞一(代表取締役専務・報道局制作局担当)

関 義仁(取締役編成局・番組審議会担当)

松田 敏和(編成局長)

宮尾 哲雄(報道局長)

南 直敏(制作局長)

飯 篤 憲彦(編成局編成部長兼視聴者室長)

山口 慶吾(番組審議会事務局長)

5. 議題

NBS開局40周年記念特別番組

「信州三景～ふるさと名曲ものがたり～」

6. 番組の内容

長野県をふるさととして生まれ、広く親しまれている「かあさんの歌」「早春賦」

「北国の春」の3つの歌がどのようにして誕生し、歌い継がれているかを描いた。

## 7. 審議の概要

- それぞれの歌の中にいろんなものが含まれていると感じるとともに、浅く分散しないで、一つひとつが細かいところまでえぐった中身のある番組になった。
- 3つの歌がすべて信州に関わりがあることを初めて知り、普段歌っている歌も知っているようで知らないことがあると再認識させられた。
- 中味が濃すぎて、たくさん詰まり過ぎの感がある。1曲ずつ1つの番組にした方が、もっと面白いものになったと思う。
- 3つの歌ができた背景やそこに関わった人々、曲にまつわるエピソード等が豊富で、いかに取材が良くできていたかということの証拠だと思う。
- 歌がどうして誕生したのかという「過去」だけでなく、歌の「現在」にもスポットを当てている点が良い。
- 盛りだくさんな1時間半を堪能した。歌のふるさとの物語が意外な広がりを見せてくれており、丹念な取材がよく分かる労作だ。ただ、一方で40周年記念番組ということで肩に力が入ったか、素晴らしいものが並んだが食べきれなかったという感じがした。
- 充足感はあるが、番組の主題が歌なのか信州の風景なのか、あるいは人間ドキュメンタリーだったのかと感じさせてしまう。
- 開局40周年記念に相応しく「十分な時間の経過感」と、忘れていた「ふるさとというものへの想い」を引っ張り出してくれる番組に仕上がっていた。